

大成功だった4年間

学長・生涯学習センター長 塚本 哲也

横浜キャンパスに4年前の1997年、朝倉孝吉前学長の提案をうけて、生涯学習センターが開設してから今年で4年目に入る。皆様の御協力と御努力のおかげで、毎年、講座数も受講者も急上昇で増えて大きな成功を収めていることは喜ばしいかぎりである。受講者数は1997年が630人、98年1,480人、99年が1,805人、2000年は10月20日現在で1,700人、本年度は2,000人になるのではないかと予想されている。発足時の実に4倍という増加ぶりです、これだけでもこの4年間の歩みが大きな実を結んだことが、誰の目にも明らかであろう。この成功の陰には当然のことながら、センター教職員および学部教員諸先生の献身的な努力と苦労があったことはいうまでもない。

若い学生を相手にするこれまでの大学の授業から、年配の社会人を相手に講義をするのはすべての点で発想の転換が必要である。講義する教師より、社会的経験も豊富で年齢も上の受講生を相手にするのは、それなりの気苦労もあり、教師にとっても新しい勉強であり、経験でもある。社会人の受講者は目的意識があり、それぞれ自分の人生哲学を持っている。その意味で、これだけ受講生の数が増えていることは、多くの講義がそれだけ受け入れられていることを示しているといえるだろう。正直の所、ずいぶん知恵をしぼった興味ある講座ができたと思っている。

これからの大学は地域社会との交流、協力なしには生きていけない。それは少子化時代だからというだけでない。交通や技術、社会の経済的発展と相まって、地域における相互連携協力の必要性が強まっているか

らだ。カルチャーセンターや大学の社会人向け講座はなにも本学だけではないが、東洋英和の生涯学習センターは、地元の横浜市を中心にすでに半分ぐらいが定期的に常連として来学して下さり、センターが定着していることが実感として分る。私も何回かささまざまな講義をして、受講生の皆さんとずいぶん顔見知りになった。十日市場や青葉台で、よく社会人の受講生から声をかけられるようになった。うれしいかぎりである。

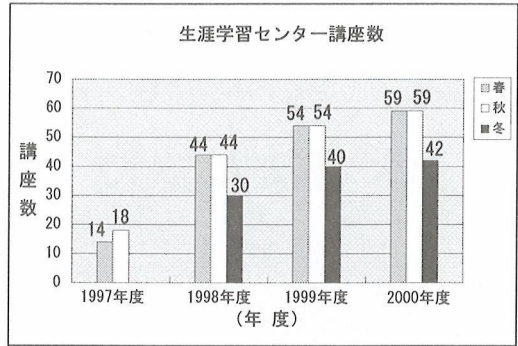
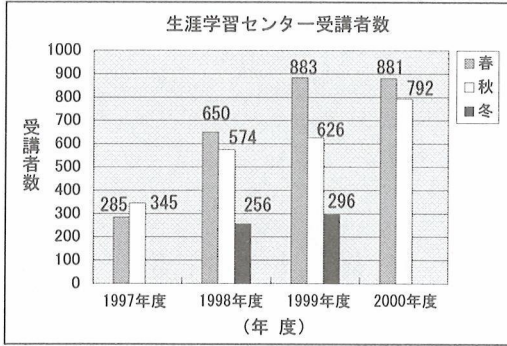
若い学生たちは教室で社会人の受講生と一緒に学ぶことに抵抗を感じるようだが、社会人受講者の真剣な態度には胸を打たれるとっており、そうあってほしいと思う。早稲田大学などでは2万人の社会人受講生がキャンパスをかつ歩しているという。それが新しい大学の姿である。

東洋英和の生涯学習センターでは、受講生との交流のため、時折パーティを開き、意見を交換するが、「このようなパーティを開くのは東洋英和だけですよ」という声も耳にしたことがある。他にない特徴は何といってもアクア・エクササイズ・センターのプールであろう。これほど至れり尽せりの完備したプールは他にない。テニスも高い評価をえている。評判も高く、さらに一層利用者が増えることを期待している。

センターの事務室はいつでも夜遅くまで電気がついていて、日々の準備などに忙殺されている。少数精鋭のスタッフの縁の下の力持ちで、センターが成り立っていることをここに記して、さらなる発展に全学をあげて進みたいと思っている。

資料で見る生涯学習センターの歩み

1 生涯学習センター受講者数と講座数



2 生涯学習センター講座担当者数と公開講座担当者数

	1997年	1998年	1999年	2000年
生涯学習センター講座担当者数	16名	18名	21名	36名
公開講座 担当者 延総数	29名	48名	28名	34名
トッピセミナー担当者数 (特別企画シリーズ)	5名	5名	5名	(7名)
内訳				
東京都港区民大講座担当者	4名	5名	5名	5名
横浜社会人大学講座担当者数	20名	21名	12名	13名
人間科学部公開講座担当者数			6名	
社会科学部公開講座担当者数		12名		9名
土曜日公開講座担当者数		5名		

3 2000年度の生涯学習センター開講科目と担当者の一覧

横浜キャンパス開講科目

<文芸・教養>

- ヨーロッパ女性の栄華と苦悩—歴史の女たち—
..... 塚本哲也・荒木昭太郎・黒岩 徹
- 何故に「こころ」が痛むのか—「こころ」の神秘をさぐる—
..... 平山正実・河野友信・織田尚生・小坂和子・原島 正
- 短歌の作り方 大河原惇行
- 日本女性作家の現在 与那覇恵子
- ことばによる科学入門 下坂 英
- 英語文献で探る近未来世界の展望
..... 山岡清二・逸見謙三
- 聖書を読もう—まず新約から—
..... 加藤 隆・川島貞雄・陶山義雄・島 創平・原島 正
- 明治大正史 I 明治維新 中村隆英
- 内村鑑三と21世紀—その宗教思想の現代的意味—
..... 原島 正

「こころ」のもちかた—新渡戸稲造の「修養」論に学ぶ—
..... 原島 正

アメリカ大統領選挙
..... 高松基之・山岡清二・進藤久美子



ヴォイス・トレーニング

<語学>

ヴォキャブラリー・ビルディングⅠ …… 新富英雄
ヴォキャブラリー・ビルディングⅡ …… 新富英雄
ヴォキャブラリー・ビルディングA …… 伊勢紀美子
TOEICの英語 …… 伊勢紀美子
学びなおす英語C-2 …… 阿見明子
英詩の窓からA-子どものいる風景 …… 阿見明子
50歳からの英語-国際小説の面白さ ヘンリー・ジェイムズを読む- …… 太田良子
もう一度英語で-英米短編小説の大きな世界-

…………… 太田良子
英日翻訳ワークショップ …… 太田良子
英語の翻訳-正確な情報伝達をめざして- …… 山岡清二
ボランティア通訳入門-コミュニケーション手段として- …… 山岡清二

初めてのドイツ語-やさしい会話、詩・童話を読む- …… 飯島千雍子
新約聖書ギリシア語入門 …… 島 創平
新約聖書ギリシア語講読 …… 島 創平
西欧言語のルーツ ラテン語を学ぶA …… 島 創平

<音楽>

ヴォイス・トレーニング入門 …… 飯島千雍子
ヴォイス・トレーニング演習 …… 飯島千雍子
うたいましょ ああこの歌 …… 飯島千雍子
歌曲を歌う-ドイツリート、イタリア古典アリアを歌う- …… 飯島千雍子
童謡・唱歌の心を感じ 歌いつくす会 …… 真理ヨシコ

<スポーツ・フィットネス>

エクササイズ・ウォーキング …… 宮下充正・新田かおり
水泳・水中運動A …… 宮下充正・福崎千穂
水泳・水中運動B …… 宮下充正・福崎千穂
フィットネス・トレーニング …… 村上哲朗
親と子どもの体操Ⅰ-A …… 村上哲朗
親と子どもの体操Ⅰ-B …… 村上哲朗



親と子どもの体操 大学構内にて

親と子どもの体操Ⅱ …… 村上哲朗
新スキー講座 …… 村上哲朗・外部講師
英和「里山あるき」クラブ-晩秋の信州路ウォーク- …… 宮下充正
学生女子テニス/選手コース …… 渋谷隆良
一般女子/初級テニス …… 渋谷隆良
一般女子/中級テニス …… 渋谷隆良
成人女性/上級テニス …… 渋谷隆良

<アート>

木で彫るクリッペークリスマス聖家族- …… 大嶋まり
大切な人へのクリスマスプレゼント“テディベア” …… 利倉佳子
「土でつくる」テラコッタの笛 …… 長崎信博
「木でつくる」動くおもちゃ …… 石津珠子



公開講座講義 特別企画“トップセミナー”

六本木キャンパス開講科目

<文芸・教養>

ジェイン・オースティン・クラブ …… 太田良子
イギリス短編小説の楽しみ-今年はミステリーを読むぞ- …… 太田良子
内村鑑三の「聖書註解」を読む …… 原島 正
歌って迎える讃美歌の歴史 …… 飯島千雍子

<語学>

学びなおす英語A …… 岡田敦子
映画で学ぶ英語 …… 岡田敦子
学びなおす英語C-1 …… 阿見明子
英詩の窓からB-子どものいる風景 …… 阿見明子
英文の書き方-発信型情報伝達の試み- …… 山岡清二
時事英文の読解 …… 山岡清二
楽しいドイツ語-やさしい会話と名作「ハイジ」を読む- …… 飯島千雍子
西欧言語のルーツ ラテン語を学ぶB …… 島 創平

<健康>

ウォーキング大学講座 …… 中村好男・川久保清・水村真由美・片山直樹・多田 紘

図書館の新しいすがた

図書館長 荒木 昭太郎

1986年5月、東洋英和女学院短期大学が新墾の横浜校地に移転し、図書館もその建物の群れの中央に位置して活動を開始しました。それは、3年後に開学された大学の施設のひとつとして一層大きい役割を担うことになったのですが、その場合、閲覧席の数からも、収蔵スペースからも、またなにより蔵書の内容と総量から見て、さらなる充実をはかるべきことが指摘されていたのです。

亀徳理事長、朝倉大学長その他の方がたがこのことを十分に理解され、新館の建設について種々可能性をさぐられました。そして1996年、学院全体の支持と賛同を得、中村館長のもとでそれは具体化の運びとなったのです。設計には、図書館建築の分野の第一人者、鬼頭梓氏が当たられたことは幸いでした。その出来ばえはまことに見事で、大学創立10周年の昨1999年秋、移転の作業を完了した職員の面々が配置についたところで、めでたく開館の日を迎えたのでした。

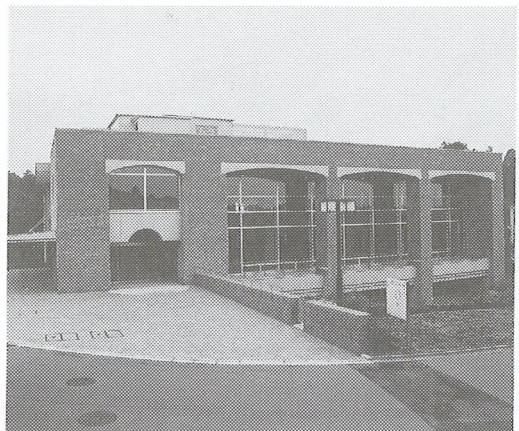
新しい建物は、煉瓦色四層の、コンパクトで品のある爽やかな感じのもので、近傍の大教室棟の大らかさ、中央館のまろやかさとよい対照を見せています。内装も快適で、フロアの色調や、書架、テーブル、椅子などのデザインも冴えたものです。これらはすべて、落ち着いたなかに集中した知の探索がおこなわれるようにという配慮によるのでしょうか。閲覧室は全面開架式で、自由に書物を取り出して利用でき、またエレベーターがあるので車椅子のひとにも楽に移動が可能です。

現在、資料の検索をカード目録からコンピューター方式にきりかえる作業が進められています。これが完成すれば、収蔵部分の有効活用の度合が一気に高まるでしょう。今後の資料の受入れは、もとよりコンピューターにまかせます。そしてさらに、館内館外のシス

テムとの多角的な連動がおこなえるよう、工夫をかさねなければなりません。また学生諸君のレポート作製などができる個室をさらにふやしたいものです。

これからの資料は、図書、雑誌の現物にかぎりません。種々の電子資料やCD-ROMなどの導入により膨大な情報の操作を可能にする方向へ、今後は進んで行くことになるのでしょうか。発展の先行きは多岐多様ですが、それはともあれ、われわれとしては、ここで、この大学のありようをしっかりと見つめ、それに適合した資料の収集を計量するよう心がけるべきでしょう。学生の勉学をゆたかにし、教員の研究を促進する、中規模ながら洗練された、好ましく使いやすい施設であるように、大学の構成員が力をあわせ、周辺の方がたのご支援を頂いて、模索と推進の作業をおこなって行くのです。

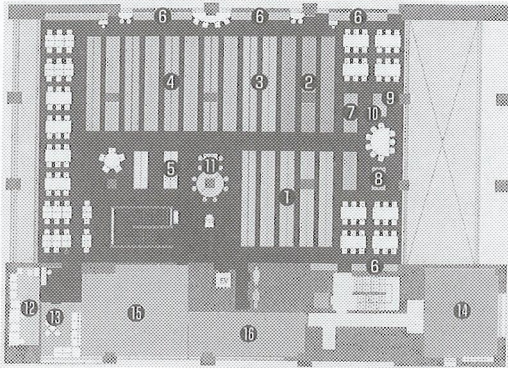
そのとき、この図書館は、学院全体の誇りともなる、晴ればれと、生きいきとはたらく部位となって、この先のわれわれの歴史のなかで価値のある存在としてあり続けるスタートを切ることになりましょう。



新図書館 手前左が入口

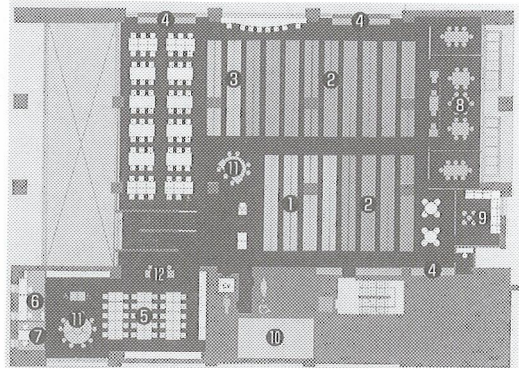
新図書館見取図

<2F>



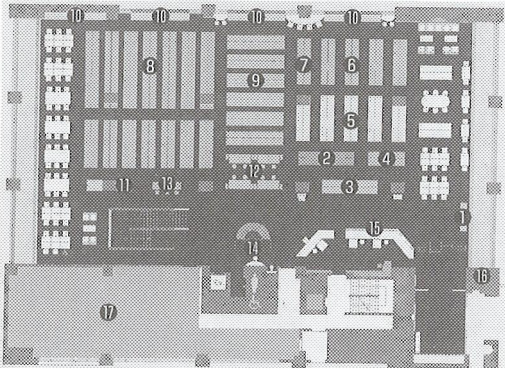
- ①～⑩ 開架書架
- ⑪ 検索コーナー
- ⑫ マイクロ資料室
- ⑬ リフレッシュ・ルーム
- ⑭ 館長・会議室
- ⑮ システム管理室
- ⑯ スタッフ・ラウンジ

<B1>



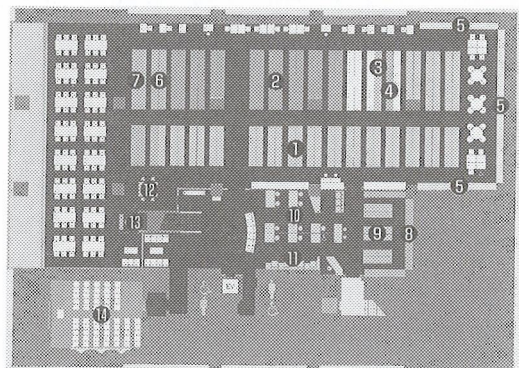
- ①～⑤ 開架書架
- ⑥ 研究個室
- ⑦ 対面朗読室
- ⑧ グループ学習室
- ⑨ リフレッシュ・ルーム
- ⑩ 貴重書庫
- ⑪ 検索コーナー
- ⑫ 検索端末

<1F>



- ① 新着図書
- ② 著者・書名カード目録
- ③ 件名・分類カード目録
- ④～⑪ 開架書架
- ⑫ CD-ROMデータベース検索端末
- ⑬ 検索端末
- ⑭ コピー
- ⑮ カウンター
- ⑯ 返却ポスト
- ⑰ 事務室

<B2>



- ①～⑦ 開架書架
- ⑧ ビデオ
- ⑨ CD・カセットテープ
- ⑩ ビデオブース
- ⑪ オーディオブース
- ⑫ 検索コーナー
- ⑬ コピー
- ⑭ リプロ・ホール

■ 建築面積 1,540.80m² ■ 延床面積 5,422.08m²

■ 収容能力 約31万冊 雑誌1,200タイトル 新聞40紙 ■ 席数455席 (検索席、ホール席を含めた総席数は692)

蔵書冊数と利用状況の推移 (大学開設以降)

年 度	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
蔵 書 冊 数	104,315	108,743	114,106	119,001	123,546	125,397	134,419	142,701	156,224	165,509	169,228
雑 誌 の 種 類	547	594	598	601	589	596	612	702	762	782	772
学生貸出冊数	12,310	14,703	17,456	19,195	22,520	23,414	22,850	21,767	22,469	28,239	29,999
学生1人あたりの貸出冊数	10	10	9	8	9	9	8	8	9	11	11
全国私大生平均貸出冊数*	5	5	5	5	5	6	6	7	7	7	7
入 館 者 数	42,502	49,965	57,165	57,742	62,816	63,279	61,182	60,440	62,253	75,049	76,830

(注) 1999年8-9月は引越しのため休館

*「図書館年鑑2000」292-293頁による。

新図書館のデザインコンセプトと特徴

鬼頭梓建築設計事務所所長 鬼頭 梓

建物のデザインは、美しい自然環境と既存の校舎群との調和を第一として、外装はイギリス産の落ち着いたイメージの薄茶色の煉瓦と打放しコンクリートを混用させて、女子大学らしい清潔感と暖色感を持たせました。学生や研究者の利用にふさわしい、知的で使い易く親しみやすい空間を提供し、同時に風致地区内の美しいキャンパスに調和した建物としました。

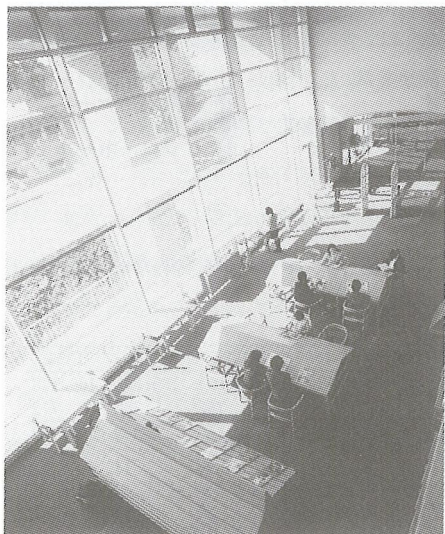
敷地は北に向いた谷地で、前面道路からの谷の深さは、建物の北面の一番深いところで約8m弱あります。従って建物は前面道路からみて下に2階、上に2階の4階建てとしました。この地形との関係から、入り口のある1階と同時に、地下2階も避難階となります。そして建物の軸線が既存校舎と平行になるよう配置しました。谷の中心が敷地の東の方に寄っているので、建物を敷地内の東側の深い方に寄せて配置し、西側に道路レベルでサービスヤードと、身障者駐車場を設け

ました。

建物は全階が開架室となっていて、地下2階と地下1階が北側で、1階と2階とが南側で、それぞれ吹抜空間で連なっています。この吹抜けは、分断されがちな階を視覚的に連続できて、他の階の異常（音や煙や声など）が直接感知できること、そして風致地区の高さ制限のため十分な天井高がとれない圧迫感を解放しました。開架室の採光は南北のガラス面を主としてすべてのガラスに飛散防止フィルムを貼り、地下1階南側の窓には地下2階のためのトップライトを設け、安全を期して合わせガラスにしました。

内装は重厚かつ飽きのこないデザインとして、壁面の造り付け書架をはじめ、机や椅子などの家具類にはできるだけ木を使い、床のカーペットの色調と合わせて、明るく気持ちの良い空間を創りました。

(新図書館案内冊子より)



1階南側 閲覧コーナー



地下2階 オーディオ・ブース

カルテットホールの誕生

— 学生にとっての心休まる憩いの場 —

学生部長 赤羽忠之

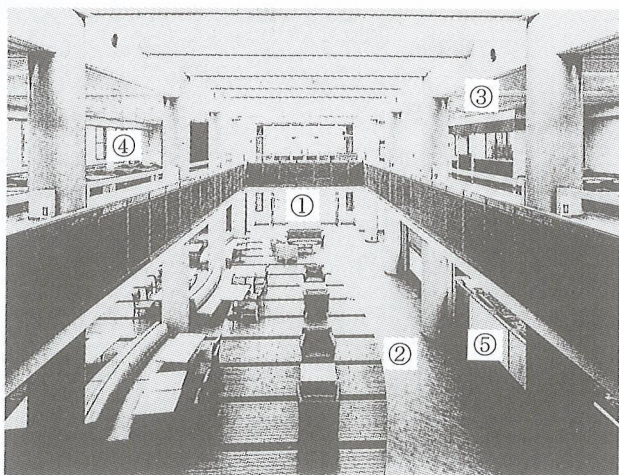
2000年9月、後期開始とともに、旧図書館が、学生ホールとして生まれ変わった。学生側の強い要望が実ったもので、その名称も、学生側の発案によって定められた。そのことについて、清楓会執行部が学生に呼びかけたところ、何人かの応募があり、清楓会の推薦により「カルテットホール」と命名することになったと聞いている。

「カルテット」とは「四重奏」の意味であり、1年生から4年生までの全学年が、和合しつつこのホールを使用し、ひいては相互の友好・協力関係を深めていこうという願いが込められているという。

さて、カルテットホールは、屋内がカラフルに改装された。従来の1～2階の吹き抜けはそのまま活かし、1階には、ソファー・椅子・テーブルが置かれている。また、必要に応じて、フロア全体を多目的に使える

ようにしてある。いかにも広々としており、陽の光の恩恵も受けて明るい。筆者が訪れた際、1年生らしき数名が輪をなして談笑していたが、新たな「憩いの場」になっている感があった。なお、1階には5号館から移転したブックセンターがあり、スペースも広がった。他に、コピーコーナー（1階）、自販機コーナー（1、2階 清涼飲料水等）がある。2階には、メイプルホール（5号館）のテイクアウトコーナーの分店が設けられ、飲み物、ケーキ等を販売している。メイプルホールの混雑の緩和にも役立つであろう。

今後、生涯学習センターの履修者の方々や本学の卒業生の皆さん等にも活用されてよいであろう。また、学生の小規模のミーティング、イベントなども可能であろう。将来の改善、充実にも期待している。

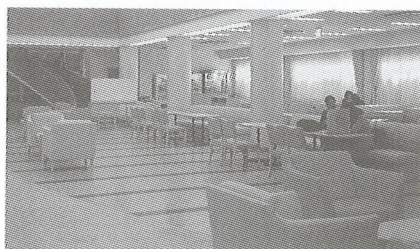


カルテットホール

- ① 正面入口
- ② カウチコーナー
- ③ テイクアウトコーナー
- ④ ダイニングエリア
- ⑤ ブックセンター



ブックセンター



カウチコーナー

面積 建築面積：972.828m² 延床面積：2,010.940m² 構造・規模 地上3階、塔屋1階・RC造

<思い出の先生がた> 1

本号より「思い出の先生がた」というシリーズで東洋英和の各部でご活躍なさって今は天に召された先生がたの思い出を連載することにいたしました。今回は中学・高等部部长として長くご活躍なさった斎藤浩二先生の日常の知られざる一面を同僚でいらした元高等部理科教諭沓澤謙一郎先生に書いていただきました。

斎藤浩二先生は『東洋英和女学院百年史』編纂実行委員会委員長をも務められ、その百年史は『文芸春秋』昭和62年新年号特別企画「戦後の名著ベスト10」の中に選ばれたほどの名著でありました。編纂当時の御苦労がしのばれるものです（高等部：古澤育恵）。

斎藤浩二先生のこと

沓澤 謙一郎

近頃になって斎藤先生のごことがよく分かるようになりました。先生には持病がおありで、いつもそのことを心配していらした。そんなに心配しなくとも、と思っていたが、自分が体に自信がなくなり、余命はいくらなどと考える年齢になると、ちょっとした病気が致命的になるのではないかと恐れるようになり、先生は若いときからこのような心配が続いていらしたのだと思われまふ。先生と六本木の花屋の裏の道を歩いていたとき、「僕なんかある朝、本に顔をうずめて冷たくなっているのを発見されるかもしれない」と、ポツンと話されました。いつも死と対決していた先生の一端をうかがえる言葉でした。又学者らしい劇的な発想だなあとも思いました。

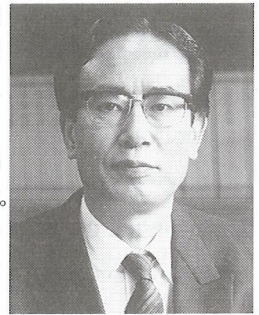
しかし先生の御最期は先生の予想に反して病院で亡くなったのです。しかも脳の障害が起こり、半植物状態で亡くなったのです。先生をお見舞したとき、反応が鈍く、あれほど頭脳明晰だった先生がと啞然としました。先生はよく勉強され大変な学者だったと私は考えています。先生が営々として築いてきた脳のネットワークはこんなにも脆く崩れてしまうのか、なんとも悲しく、病気とはかくも無情なものか。私は直感的に治ったとき後遺症が残るだろうと考えました。家族の方には申しわけないのですが、このまま神に召された方が、などと考えてしまいました。このような先生を見ることは耐えられなかったからです。先生はあくまでも聡明でなくてはならないと考えていたからです。

先生はよく私のいた物理準備室に來られました。将棋などをしたこともありました。たまたに、私が勝つこともありましたが大体は先生のじっくりとした守りの将棋にやぶれました。くやしくないという嘘になりますが、あまりくやしくはありませんでした。先生の方が一枚上であると認めていたためでした。先生の御尊父は科学者でした。先生は理科系に興味があったの

ですが御尊父から理科系は体力が必要だといわれ、国語の方に進んだと話されたことがあります。

私は先生は本質的には理科系だったと考えています。いつか野尻で花火をみていたときのことで。先生は私の隣りにいて「沓澤さん、

なんで花火は丸く開くのだろう。花火の上の方は重力に逆らって上るし、下の方は重力に助けられて速くなり形が丸でなく楕円の様になってしまうのでは。」と言われました。ぼんやりとなんの不思議もなく見ていた私は突然の鋭い質問にたじたじとして、物理の公式などが頭にうかび（受験物理の弊害）、まごまごしていると、先生が自ら答を出してしまわれました。「一斉に同じように落ちているからそうなるんだ。同じように落ちているということは相対的な位置が落ちていないときと同じなんだ。」と。誠にその通りでした。公式だ、法則だ、と生徒に教えていた私は本当の物理というものを思いしらされた気がしました。大体こんなことを不思議に思うことが科学者なのです。しかしその斎藤先生はもういらっしやらないのです。



斎藤浩二先生ご略歴

1933年	神奈川県に生まれる
1956年	早稲田大学第一文学部文学科国文学専修卒業
1963年	東洋英和女学院高等部非常勤講師に就任
1965年	東洋英和女学院高等部国語科教諭に就任
1966年	早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程修了
1975年	東洋英和女学院中学部部长に就任
1981年	東洋英和女学院高等部部长に就任
1994年	東洋英和女学院定年退職
1994年11月12日	心不全のため逝去(享年61歳)